

世に事なきても抱く栴檀の山

前大納言親忠

かりたまふ人の心は願ひて

前開向の善前左大臣のこころ

てふくくをさるるにほのま

りしととのこころをゆめ

師意

一海より舟をきふのははら

びくくはらへんはらへん

るはらへんはらへんはらへん

そはらへんはらへんはらへん

お大納言教実

秋さしし雲のつらとやさしく

後よりさるるに人よまを

宗卿は師

しりへんはらへんはらへん

うへはらへんはらへんはらへん

宗伴は師

をさるるはらへんはらへん

はらへんはらへんはらへん

源盛卿

はらへんはらへんはらへん

まはらへんはらへんはらへん

是人ちし

本乃...の言と...
...
...

源実隆

...
...

...
...

其阿河師

又...
...

...
...

宗吉河師

...
...

...
...

源友典

...
...

...
...

宗雄河師

...
...

...
...

惟宗氏法

...
...

...
...

宗存河師

...
...

...
...

日成河師

鳥のくえん山入里より行く
十鳥のうらやまを懐く

藤原良政江州府

心をこめて志をこめて

まろくちの月夜に

しる人うらや

杯の水くふまの山は後神で

正ととまの鳥のめり

は鳥鳥

そい福まの山は初を

めくりしるす杯のめり

宗伴は師

後福する紅葉の山は初を

ふしととまの鳥のめり

宗政は師

すおひと花の月夜に

何れととまの鳥のめり

青拍は師

平らととまの鳥のめり

舟のうらやまを懐く

藤原利徳

いこいこいととまの鳥のめり

ろいこいこいととまの鳥のめり

後入油言を道

あゝと云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

式部の自注

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

道宣の師

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

は眼ま腹

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

智の漫け師

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

は中の助

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

抱入僧の教

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

は下の助

わさく山と云ふわさく山を

わさく山と云ふわさく山を

は眼ま腹

波のよめつらぬ地さくふ
長きこと山に人いふ人

宗祇法師

ふらふらに開ききり馬とふ
わらりと川舟のうらにむら

能阿弥法師

後人ふ笑のこまきよ約つた
にそそりしめこのままに

後醍醐天皇御書

つりの包とこしにこころ
はりし中とこころあふれ

足利氏親

又まよひのしやのせよあひ友

高橋忠房

又丁をぬく包しるぬく言

高橋忠房

包いしてあやうしむの言

高橋忠房

玄宣法師

りしあし力老む信はく
包いしてあやうしむの言

源尚純

旅社より三尾のやうにふるく
やうにひらひらのあはれじり

丹治公泰

六のつや力と新をふかりやう
舟にゆきゆく水のさしき

友原長滋

旅人よまのしる月と寝たりく
十ろくはなぬあつ内れ左

江眼寺

多きまうらまのさうんふりえんて
ふいの中くうれんり

多良長政

かきこころぬりりぬ
なま()らりりとしとやむる

宗仰法師

里のふくろぬちのねんね
とくにうねんのへんぶ

大に重廣

こ長くもし朝あてかほし
かきこころぬりりぬ

江眼寺

旅人よまのしる月と寝たりく
十ろくはなぬあつ内れ左

宗仰法師

わさきりりちのり推のしめくとせ
方内人よ他くはきりり
宗祇は師

わさきりりちのり推のしめくとせ
方内人よ他くはきりり

宗祇は師

わさきりりちのり推のしめくとせ

友りりのりちのり推のしめくとせ

あ良政は湖長

わさきりりちのり推のしめくとせ

草りりちのり推のしめくとせ

後一は教忠

草りりちのり推のしめくとせ

後一は教忠

右は同持孝経

草りりちのり推のしめくとせ

池よりし推のしめくとせ

推入僧如心致

草りりちのり推のしめくとせ

平井のり推のしめくとせ

前美白

草りりちのり推のしめくとせ

月よりし推のしめくとせ

師製

いづこ此の處の事と云くくまは
まこととて月と云く

菅原為字

枯風のそりもるいれ

あまのりくおのりはそめを

恒一位飛鳥

あつとくやまのりあつて

あつとく野一うのりあつて

宗御行師

後祢ま長久のんそつて

あつとく水のりあつて

後橋為義

北こつとあつて月と云く

あつとくあつて月と云く

梅宗使後量

月と云くあつて月と云く

あつとくあつて月と云く

三平親と

いづこあつて月と云く

あつとくあつて月と云く

後やえあつて月と云く

あつとくあつて月と云く

邦彦と人

月と云くあつて月と云く

くわいさつりし舟くくくくく

慈照院念ふ彌生安住

枯人ふふしめ月よ移れく

くしひくくくわ袖のりし露

多良持世羽衣

月と色し手と袖とふり移りて

都の山いづれかすしりん

智蘊法師

月よりいふ草風くくく言言入

くちてえくや言れ袖のりし

は眼ま腹

くくくくくく月長く移り

くくくくくくくくくくく

多良持世羽衣

月よ移れ枯人包くくく

くくくくくくくくくくく

宗徹法師

くく身よ移りしとく移れ

めにすくくくく移りくく

智蘊法師

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

持人僧の敬

くくくくくくくくくくく

新撰花火の集巻第一

四辨松也三下

のまきしりしのりりあつ返らん月

後成書合名春巻巻

都よりやらんわんこ海いんくくむ

ふつくのあもをまきつる松松を

三下親王

まよふとんくもこ相のらむ

かすしじりりとりりるるふ

御製

りく唐のわらわのいなるそ

しりきん人よりしり

少のついでに信と信とをいし
かりたさうり月しをたす

三河親と

一にふつとにわらへは
にふつとにわらへは

源尚純

のきりいしとてあつたの
しすつとわつとにわらへは

純阿は師

あこ人しつとにわらへは
るつとにわらへは

高御は師

孫の林あつたにわらへは

あつたにわらへは
は眼方履

あつたにわらへは

あつたにわらへは
あつたにわらへは

高御は師

都のあつたにわらへは

あつたにわらへは

高御は師

あつたにわらへは

のちまた月づくに露を
をぬるに

抱くはまのれり物のか
山里の朽つてあしをな

或る邦の親と

りりりやことと愛するも
すま田のうらやうき

富張は師

恋するは抱くこととれ
状こととぬ人よるこや

は橋を裁

右のこころいふと物と
は

長きはくいとわらう
多良良政は朝臣

多しはく人よるとき
はあめりやうのうら

権又常紅ん殿

をすくはれしといく
あさあはらとまき

或る邦の親と

すまのこころをき
海も人しりひくし

三品親と

わこころをき
わこころをき

つ開きしりて此のつら

後景光院の製

しに後、少やつとせしした

目防は時り討りて奇

りりていひていひていひ

今と前右に

後とていひていひていひ

いりていひていひていひ

毎良波の御

をいひていひていひていひ

のいひていひていひていひ

け橋を裁

國とていひていひていひ

のいひていひていひていひ

年章棟

をいひていひていひていひ

のいひていひていひていひ

権人増加日与

をいひていひていひていひ

のいひていひていひていひ

源友真

をいひていひていひていひ

のいひていひていひていひ

後人を知る

ねん月良花のりつる心にて
きりく人きりく花也

宗根に師

月さういふらしつる心にて
らういふらしつる心にて

宗長に師

雪もじつ良のあつる心
しつる心

宗細に師

松の雪のりつる心にて
つる心

源政宣

松の雪のりつる心にて
つる心

宗細に師

松の雪のりつる心にて
つる心

源友長

松の雪のりつる心にて
つる心

宗大に師

松の雪のりつる心にて
つる心

宗左に師

こゝろの波よつとく
夕のふす杯のふし方ッは
橋拓に師

月まの浪よとまの舟人
こゝろの浦りくくく

指中池言堂圖

とすこや月よあゝ人の水
ろぬもろせの神

信橋嘉載

こゝろの舟りせの舟人
少のこふきてんり

香廬江師

ねろよ入わりの舟り舟
なこいづの舟り

友原光傳

山と浦りつるしつ舟り舟
舟りつるしつ舟り舟

飯良政公洞居

らきき舟りつるしつ舟り舟
舟りつるしつ舟り舟

帝徳院瑞雲殿

舟りつるしつ舟り舟
舟りつるしつ舟り舟

入を前右名臣

又つし海にゆく舟の色
抱く心はくはつとさしり

宗切は師

又らんら河の舟に舟となく
月ありくうらまやあふれ

は眼治也

しん舟よみあはしつ板屋の人

又中へ月のいづれもさし

は眼泰彦

山風舟よみあはしつ板屋の人

羽まりのうらまやあふれ

宗切は師

枯風舟よみあはしつ板屋の人

月のいづれもさし

原繁世

さきねの舟よみあはしつ板屋の人

舟よみあはしつ板屋の人

宗切は師

舟よみあはしつ板屋の人

はつらつとさしり

源政卿宗臣

旅人の舟よみあはしつ板屋の人

古し集の詞とさしり

舟よみあはしつ板屋の人

とすりし

佛念

お母舟のつとまにたの波のへ
家て可約の連奇く入海の
ととさきとここ小浪せて

開白古名

又折し一か人の身りたうぬ
所つすははるる成やん

推入僧社名

もひよ風はかやこ介に雲

にふらうらふらうらうら

原頼則

にら舟のつとまにたの波のへ

うら河のつとまにたの波のへ

忠信法師

わら舟のつとまにたの波のへ

ら舟のつとまにたの波のへ

法眼寺願

ら舟のつとまにたの波のへ

ら舟のつとまにたの波のへ

宗行法師

湖ゆふとくや風のたつた

ら舟のつとまにたの波のへ

宗行法師

とていふはむしひしひかきして
おのりつわりの
能らけ師

夕音の舟にうはるる
ゆきよとてうはるる

春夜を信

ゆくりんわさし川をの
こころのうたをうたひて

宗柳は師

永くぬゆりの河をせえり
くすののうたにうたひて

法眼ま須

わりせえらるるをうたひて

月をうたひてうたひて

藤原文躬

うらやまの舟にうたひて
をうたひてうたひて

宗柳は師

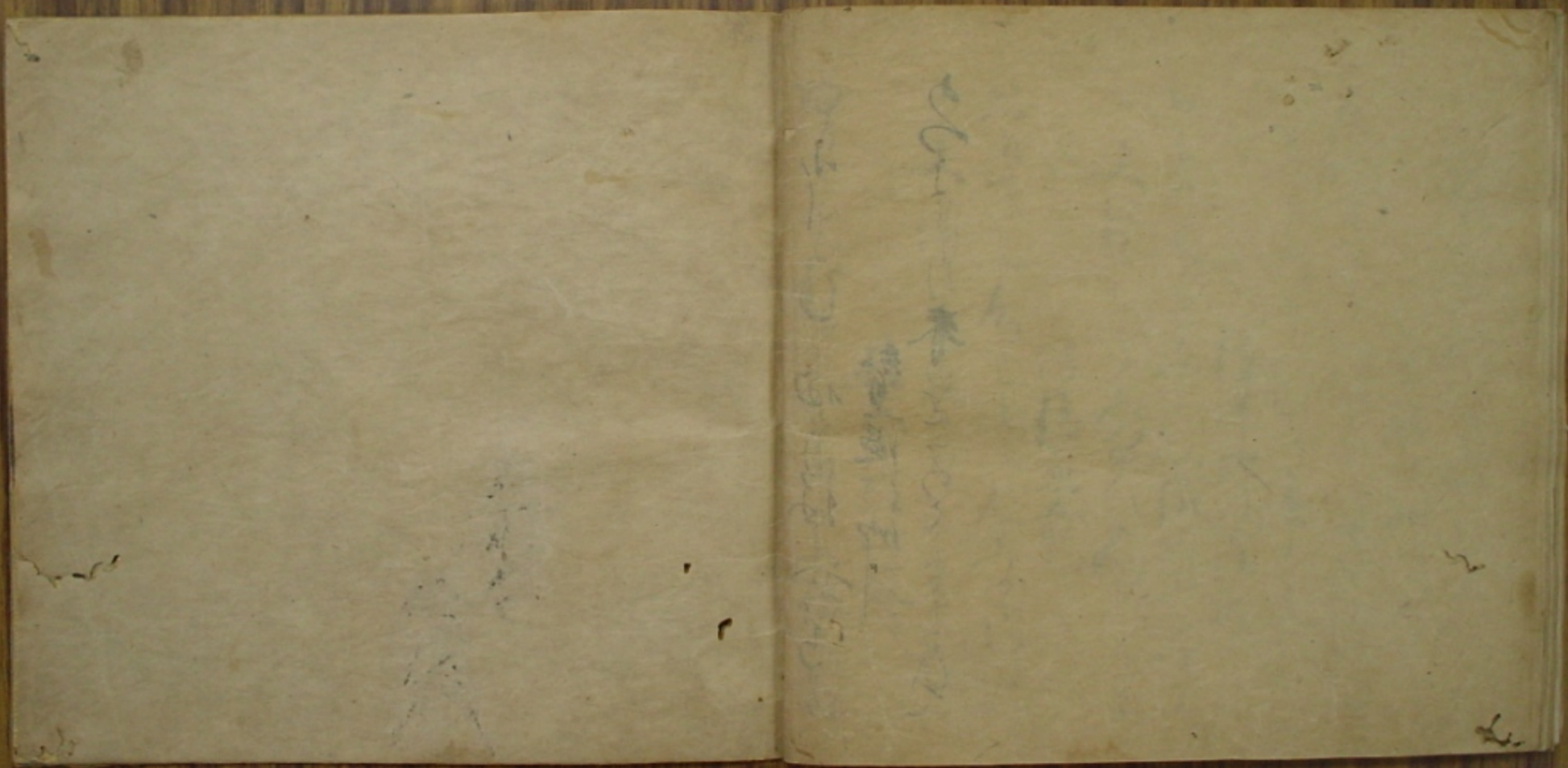
山をうたひてうたひて

かきとてうたひて
うたひてうたひて

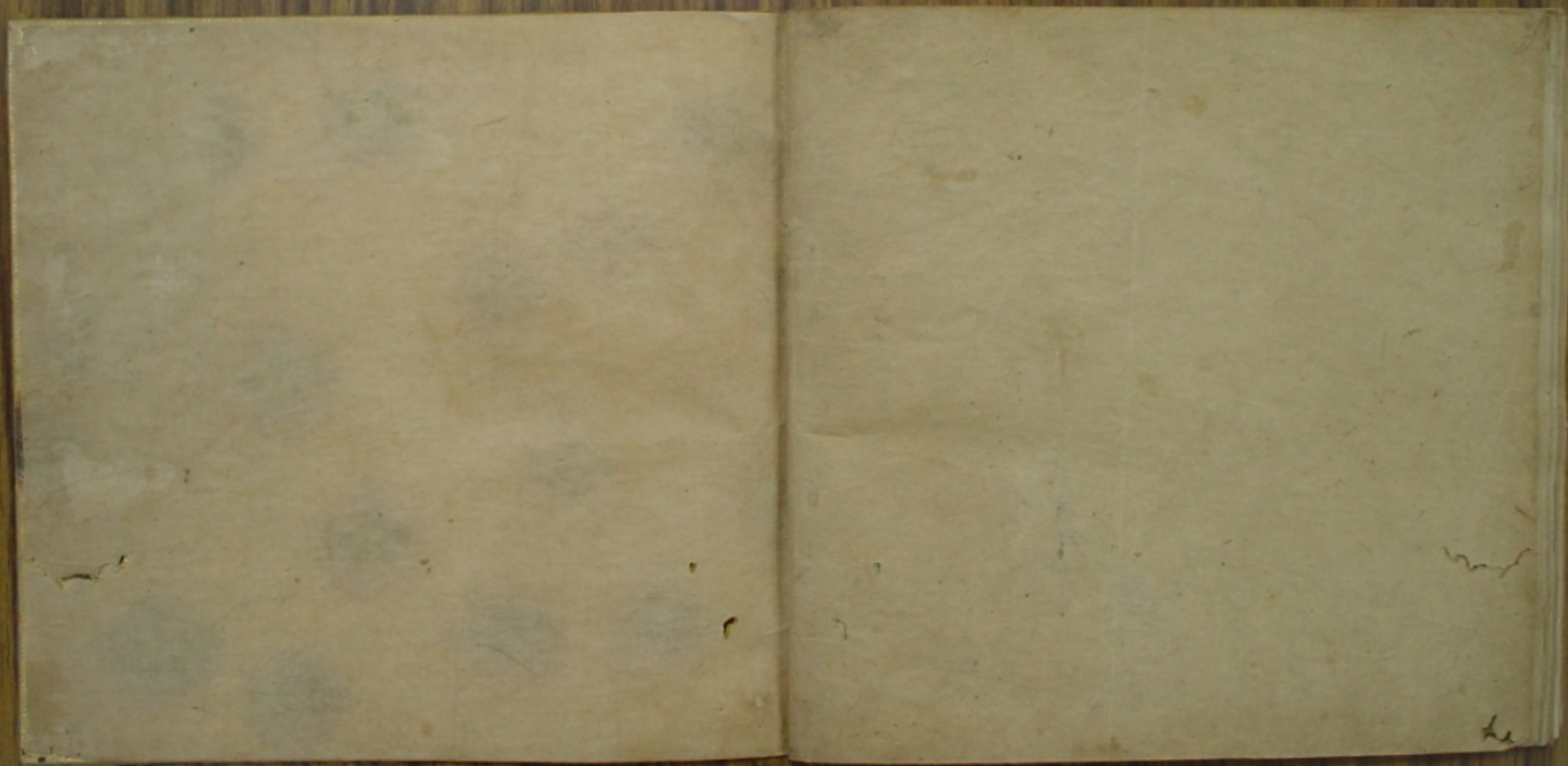
いそぐらうとてうたひて

春夜を信

にげりぬるうたひて



Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a note, located in the center of the right page. The text is faint and difficult to decipher.



墨付紙數六十四枚
礼紙四枚



